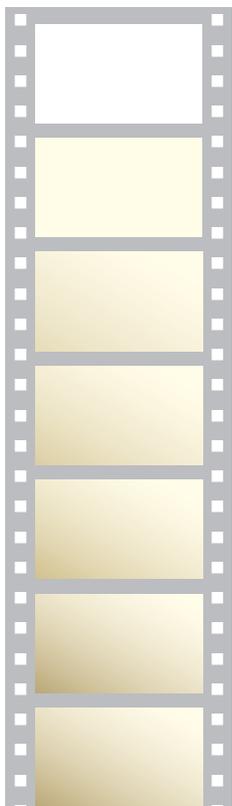
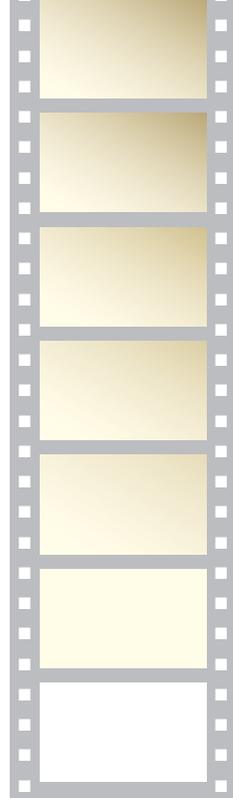


伸^{ノブ}さんのシネマトーク

鈴木 伸夫



第二十九回 「名古屋弁とビートルズ」

名古屋に住んでいた頃、家の近くの道で友達とすれ違った時「ヨーヨーヨー」と、呼ばれたのか、掛け声をかけられたのか、どちらかわかりませんでした。それぞれの土地によって品物の名前が違ったり、呼び方も違います。また、なまりも入ってきます。

なぜかわかりませんが、北海道出身の人にはなまりがないと聞きました。確かにぼくの父母、そして姉も言葉はなまっています。

しかし、父は全国を転々としている営業のサラリーマン。外では、その土地の言葉を使わないと土地の人と親しくなれないと、毎晩好きな酒を飲んで土地の人と親しくし、なまり言葉を独自で楽しく勉強していました。

ビートルズの映画デビュー作「ビートルズがやって来るヤァ!ヤァ!ヤァ!」(64年ウォルター・シエンソン、デニス・オデル製作・アメリカ・ユナイテッド映画配給・黒白普通版・原題「A HARD DAY'S NIGHT」(多忙な夜)・リチャー

ド・レスター監督・音楽監督ジョージ・マーティン・歌曲、ザ・ビートルズのタイトルにも考えさせられました。

「ヤア！ヤア！ヤア！」とはいったい何だろう？ 調べてみるとこのタイトルを考えたのは、映画評論家の故水野晴郎氏だったのです。当時、彼は洋画配給会社「日本ユナイ特映画」の宣伝部長をしていて、ビートルズ映画宣伝の担当者だったのです。

64年3月、ニューヨークの本社から「ビートルズ主演映画ユナイ特で配給」という緊急電報が入っただけで、題名も決まっていなかったのです。イギリスからきたタイトルは短編映画のタイトルで「ビートルズが町にやって来る」(原題名「BEATLES COME TO TOWN」63年11月10日のマンチェスター公演を収録した短編映画)でした。

「ビートルズが町にやって来る」のタイトルは、短編映画のもので、長編映画のものではなく間違っていました。ビートルズファンには知れ渡っていたので、使うことにしました。また、本社からの指令で、「ビートルズ」だけでひとつのタイト

ルにはいけないというルールもありました。そこで考えたのが「ヤア！ヤア！ヤア！」だったのです。

ロックのリズムを知らない大人たちは、挨拶に使う言葉だとこの意味を誤解しましたが、ビートルズファンにとって「ヤア！ヤア！ヤア！」は、彼らの胸の中のリズムの言語化（つまり言葉にすること）なのでした。

名古屋弁の「ヨー！ヨー！ヨー！」とは、全然、品格が違うんですね。でも「ヤア！ヤア！ヤア！」はちよつと難解過ぎたのか、01年のリバイバル公開時のタイトルは、「ハード・デイズ・ナイト」に変わっていました。このタイトルはメンバーの一人、リンゴ・スターがため息ながら言った「ことば」と言われています。とてもきついスケジュールの撮影だったのでしょうか。

「ビートルズ」が来日して今年（11年）で45周年になります。

（続）
伸

平成23年10月